

令和2年度 第2回津別町地域公共交通活性化協議会 会議録

【1】日 時 令和2年7月28日(火) 14時30分～16時00分

【2】場 所 津別町町民会館 大ホール

- 【3】会議次第
- 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 津別町の地域公共交通の現状と課題について
 - (2) 今後のスケジュールについて
 - (3) その他
 - 3 閉会

【4】出席者

(1) 委員

No.	所 属	役 職	氏 名
1	北海道運輸局北見運輸支局	首席運輸企画専門官	久保田 一好
2	オホーツク総合振興局地域政策課	主幹	高橋 央明
3	北海道北見バス株式会社	自動車部次長	佐々木 淳
4	有限会社津別ハイヤー	代表取締役	鈴木 克典
5	網走開発建設部北見道路事務所	所長	小谷内 史義
6	網走建設管理部事業課	課長	紺屋 昌義
7	北海道北見方面本部美幌警察署	地域・交通課長	大谷 俊也
8	津別町商工会	経営指導員	今野 裕一
9	自治会女性部連絡協議会	副会長	栗田 綾子
10	津別町PTA連合会	会長	福井 隆雅
11	一般社会福祉法人津別町社会福祉協議会	事務局次長	門脇 隆司
12	NPO法人まちづくり支援センター	代表理事	為国 孝敏
13	株式会社津別町振興公社	課長	安藤 哲也
14	私鉄総連北見バス支部	執行委員長	藤原 義之
15	津別町役場	副町長	伊藤 泰広
16	津別町役場	保健福祉課長	小野 淳子
17	津別町役場	産業振興課長	小泉 政敏
18	津別町役場	住民企画課長	森井 研児
19	津別町役場	生涯学習課長	千葉 誠

(2) その他

No.	所 属	役 職	氏 名
1	北海道運輸局交通企画課	企画第一係長	佐藤 彰也

【5】欠席者

No.	所 属	役 職	氏 名
	なし		

【6】事務局

No.	所 属	役 職	氏 名
1	津別町役場	課長	石川 勝己
	津別町役場	課長補佐	斉藤 尚幸
	津別町役場	道路河川係長	安瀬 雅祥
	津別町役場	道路河川係	長瀬 昌志

【7】会議の経過

1. 開会（14：30～）

- ・事務局から北海道運輸局交通企画課企画第一係長 佐藤彰也様 紹介
- ・会長（副町長）より挨拶
- ・出席委員全員出席（19名）

2 議事

（1）津別町の地域公共交通の現状と課題について

【概要説明】

事務局石川課長より資料を基に説明

【質問・確認事項】

（委員）実証運行にかかった経費はいくらか。

（事務局）町の資源を活用したため、実証運行時の経費は多くかけていない。実際の運行に係る経費は将来250～300万/年と推計しているが、車両の新規購入等により、想定よりも費用が増額する可能性がある。

（委員）スクールバス経費は高いように思われるが、内訳はどのような費目か。

（事務局）6路線のうち5路線の委託料、相生線の臨時職員運転手の人件費、車両関係の諸経費が大まかな内訳項目である。

（会長）PT 調査の代表交通手段は調査対象地域全体の結果か。

（事務局）調査結果の引用のため、全体の結果である。

（副会長）今後、新庁舎建設や新たに導入される交通等に伴う運行計画の検討状況はどうか。

(事務局) 現在検討中であるが、安全性を十分に考慮して運行計画を作成する。

【意見交換】

※会長の進行で意見交換の実施

(各委員より)

- ・運転手の確保が問題となっている。(高齢化がかなり進行している)
- ・スクールバスの運行が朝・夕となるため、スポット的に対応が可能な退職した年代の方が運転手となることが多い。
- ・高齢化に伴い、夜の運行が心配である。(特に70歳以上)
- ・恩根線及び二又線の実利用者1名は夏の利用のみ。(冬は家族の送迎)
- ・10年後には、乗車しなくなる。(高齢で乗車することも難しい)
- ・ワゴン車による実証運行では、段差等の道路状況による乗り心地の悪さも課題である。
- ・北見バスでは、そこまで運転手不足とはなっていないが、2～3年後には不足してくる可能性が有る。
- ・若い世代の免許保有率が低く、大型免許取得に繋がりにくい。
- ・65歳定年、70歳まで継続雇用可能。(2年後には70歳退職の方が十数人)
- ・運転手確保が問題。
- ・利用者数が減少。(年々1～2割が減少)
- ・如何に利用者数を増やすのかを考える必要がある。
- ・人口減少に加えて、新規のお客様が増えないことが問題。
- ・団塊の世代は車を運転してしまう。
- ・自分自身、車を利用しているので、正直、バスの話は分からない。
- ・町外も自家用車を利用することが殆どである。
- ・冬場にバス(開成線)を利用して北見へ行くことがある。
- ・免許返納もしなくちゃいけないが、今はまだそこまで考えられない。
- ・高齢化で返納に加え、身体・精神的な病気により、返納される方もいる。このような方たちのためにも、公共交通は必要。
- ・自家用車を利用している世代から公共交通を利用できる仕組みづくりが必要ではないか。
- ・町内を運行する北見バスの主な利用者は、学生と高齢者。(冬には一般も利用)
- ・北見市では、学生と高齢者にバスの乗り方教室を実施している。(利用促進策は必要)
- ・公共交通関連に年間1億円の経費を要しているのに驚いたが、より効率的な交通体系が必要なのではないか。
- ・公共交通なので、個人行動に合わせたものではないので、そこに不便を感じる。
- ・町民の移動パターンがある程度固定化しているのが想定されるため、個別の聞き取り等を実施し、ニーズに応じた運行ができないか。
- ・ニーズに即していくために、デマンド交通のようにある程度自由に移動できる施策が必要ではないか。
- ・私用目的や部活動などの状況も踏まえ、個別のニーズに即した交通を実現できないか。

- ・安平町を参考にシステムとしてもデマンド交通のようなものを入れられないか。(データも確保できる)
- ・ライドシェアなど(ポイント制等、お互いが利用しやすいようなもの)もあり得るのではないか。
- ・少ない人数なので、北見市や美幌町までのデマンドも有りなのではないか。
- ・人口が減少している地域では、その意見は対応として検討の余地があると思う。
- ・個別のニーズ対応は時間がかかるものの、個々の調査は必要と思う。
- ・津別町においては、まず、ターゲット層を明らかにした上で検討することが必要と思う。
- ・実証実験は北海道での実施が多いが、人口が少ないため本格的な導入が行われない懸念がある。
- ・他地域での実施事例を流用すると失敗する恐れがある。データに基づき地域の実態を把握して持続可能な交通体系を構築する必要がある。
- ・普段は公共交通を利用しなくても良いが、時々乗ってみることが必要。
- ・高齢者が病院に行く時間は、朝9時頃で、帰りは午前中がほとんど。
- ・北見市、美幌町には、月に1回程度。
- ・福祉有償運送はドアトゥドアを提供しており、利用者からは好評。今後さらに必要と考える。
- ・福祉有償運送のドライバーは1日3時間程度の動きだが、1日の拘束をしており、経費がもったいない。
- ・運転手も高齢者が主となっているため、若手の参入が望まれる。
- ・以前に配送サービスを商工会で検討したが、採算性の観点から断念した。
- ・公共交通と連携した商業施策は今のところ検討していない。
- ・一般的に買い物スタイルが大きく変わっており、配送サービスといったものも主力となっている
- ・コープなどは民間事業者なので、売上が下がれば、撤退の可能性もあることは頭に置いておくべき。
- ・配送サービスは利用減少のリスクや地元商業施設の維持といった観点から全面的に実施することは難しいと考えられる。
- ・北見市での乗り方教室は、バス乗車目的創出のため、配送サービスを実施している店舗へ手ぶらで往復できるような利用形態を想定した内容の実施を予定していたが、コロナで中止となった。
- ・網走市でAIデマンド(網走バス・NTT)を実施予定。(デマンドより便利だが、タクシーより不便をモットー)1回300円で8月から12月まで実証実験。
- ・ライドシェアは、法律的に問題がある(安全面にも問題は発生する可能性がある)
- ・斜里町で昨年実証実験(あらかじめ運転手を登録し、アプリで利用者と繋ぐシステムで運賃は任意)
- ・基本的には、プロのドライバーにお願いするのが良いのではないかと思う。

- ・大通・幸町地区の再開発について、公共交通の入り方等々を教えていただきたい。

事務局⇒現時点では、なにも決められていないが、当然、案が出てきた時点で、関係機関と協議しながら決めていきたい。

(運輸局-佐藤係長：オブザーバー)

- ・アフターコロナに向けた生活の足の確保に向け、今から町民の皆様で考えていただきたい。ライドシェアなど住民の活用ではなく、安全面を十分に配慮している交通事業者が運行を実施するのが望ましいと考えられる。今後の法改正においても、地域の足を守るために、地域の資源を最大限活用することを謳っているなので、今後も是非、このような前向きな議論をしていただきたい。

(委員)

- ・ライドシェアを有料で行うのではなく、地域ポイントなどの付与でできれば問題ないのかなと思う。
- ・ちょっとした物流もアプリなどで、繋げられれば、効率化に繋がるのではないか。
- ・北海道は先進技術の実験場であり、本格運行を想定して実験運行を行っているわけではない。先進技術に躍らせるのではなく、津別町に即した交通を導入することが重要。
- ・いきなり導入は、確かに難しいが、データ取りとしては、有用ではないか。
- ・最適なデータ取りは、住民から意見を聴くことではないか。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局より、9月上旬に開催する第3回協議会までに、本日出された多くの意見を踏まえて、計画素案の作成に取り掛かる。11月までにあと3回会議を予定しているのでよろしくお願ひしたいと説明した。

3. 閉会